

バルナバ

シリーズ～弟子道～

2011/11/6

第2世代の弟子たち

- 世界宣教を担った弟子たち
 - パウロ・バルナバ・ルカ・アポロ・シラス・テモテ・アキラ+プリスキラ・マルコ
- イエス様の世界宣教命令を実行した
 - 「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」〈マタイ28:19-20〉

バルナバ(ヨセフ)

- 「レビ族の人で、使徒たちからバルナバ—『慰めの子』という意味—と呼ばれていた、キプロス島生まれのヨセフも、持っていた畑を売り、その代金を持って来て使徒たちの足もとに置いた。」<使徒4:36-37>
- 外国出身のレビ族であった
 - レビ族は神殿で仕える特別な部族だった
- 畑を売って教会に献げた
- 「慰めの子」と呼ばれた

サウロを教会に紹介した

「サウロはエルサレムに着き、弟子の仲間に加わろうとしたが、皆は彼を弟子だとは信じないで恐れた。しかしバルナバは、サウロを連れて使徒たちのところへ案内し、サウロが旅の途中で主に出会い、主に語りかけられ、ダマスコでイエスの名によって大胆に宣教した次第を説明した。それで、サウロはエルサレムで使徒たちと自由に行き来し、主の名によって恐れずに教えるようになった。」 <使徒9:26-28 >

パウロを連れ出して用いた

- エルサレム教会で交わった後、パウロは故郷、タルソスに戻っていた
- バルナバは、わざわざタルソスまで行き、パウロをアンティオキアに連れ帰った
 - 「それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間そこの教会と一緒にいて多くの人を教えた。」〈使徒11:22〜〉
- バルナバはパウロの賜物を見抜いていた!

世界最初の宣教旅行

「彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。『さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出さない。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。』そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた。聖霊によって送り出されたバルナバとサウロは、セレウキアに下り、そこからキプロス島に向け船出し…」 <使徒13:2~>

- 最初の説教旅行は、バルナバが主であった！
 - リストラでは、バルナバは「ゼウス」、パウロは「ヘルメス」と呼ばれ、礼拝対象になりかけた

エルサレム使徒会議で

- 異邦人クリスチャンに、律法を守らせるべきか判断した教会初の重要会議（使徒15章）
 - 「パウロやバルナバとその人たちとの間に、激しい意見の対立と論争が生じた」(2)
- バルナバはパウロに同行し、律法を持たない異邦人にも神が働かれることを証しした
- 異邦人クリスチャンは律法を守らなくて良いという決定を、パウロとバルナバに託した
 - 「使徒たちと長老たちは、教会全体と共に、自分たちの中から人を選んで、**パウロやバルナバと一緒に**アンティオキアに派遣することを決定した」(22)

マルコを守ったバルナバ

「数日の後、パウロはバルナバに言った。「さあ、前に主の言葉を宣べ伝えたすべての町へもう一度行って兄弟たちを訪問し、どのようになっているかを見て来ようではないか。」バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネも連れて行きたいと思った。しかしパウロは、前にパンフィリア州で自分たちから離れ、宣教と一緒に行かなかったような者は、連れて行くべきでないと考えた。」

<15:36~>

マルコを守った

「そこで、意見が激しく衝突し、彼らはついに別行動をとるようになって、バルナバはマルコを連れてキプロス島へ向かって船出したが、一方、パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて、出発した。」<使徒15:36-40>

・バルナバはパウロと別れてもマルコを置いて行くべきではないと考えた

・後にパウロは「マルコを連れて来てください。彼はわたし(パウロ)の務めをよく助けてくれるからです。」<2テモテ 4:11>と言った。

バルナバに見る弟子道

- すべてを献げてイエス様に従う
- 福音を世界に伝える
- 徹底的に弱者に寄り添う「慰めの子」
 - パウロを見出し、味方になった
 - 異邦人クリスチャンを律法の呪縛から解放した
 - 弱いマルコを見捨てず、用い続けた
- 「正義を勝利に導くまで、彼は傷ついた葦を折らず、くすぶる灯心を消さない。」